

職員からのひと言

三席検事というのはあまり耳慣れない役職名かもしれません。

三席検事は、現場で働く、つまり、刑事事件の捜査をする捜査活動や、刑事裁判に立会する公判活動を行う検事としては筆頭格になります。

そのため、県内で社会の耳目を集める重大事件が起きた場合、その多くは三席検事として私に対応することになるため、その責任は重大ですが、そのような事件を適切に処理できた時にはとても達成感がありますし、その過程で多くのことを学ぶこともできます。

一生懸命にそのような事件に取り組む中では、判断に悩むことも多々ありますが、そのような場合には、上司や周囲にいる後輩検察官等に適宜相談しながら何が最良の選択肢かを吟味して決めていくこととなります。もちろん、私も、筆頭格として、後輩検察官が事件処理に悩んでいる時には助言・指導をすることもあります。

そのように、周囲の職員に相談しながら、周囲の職員の力を借りて仕事を遂行していくことができるというのは、検察庁という組織の強みであり、良さであると感じています。

また、休日には、仕事を忘れ、ジムに行ったり、ドライブに行ったり、お酒を飲んだりして楽しんでいます。日頃一生懸命働くと、休日にこれらのことをすることがいつも以上に楽しく感じられます。

みなさんも検察庁に入庁した際には、是非、勤務日は一生懸命働き、その分これまで以上に楽しく感じる休日を過ごす生活を送ってみてください。



私は、捜査や公判に携わり、検察官や立会事務官のサポートなどを多く行う部署で働いています。個人的なことになりますが、今年度の初めに娘が生まれ、そこから3か月間の育休を取得させていただきました。

育休中は、娘の成長を間近で見ることができ、初めて寝返りができた瞬間などに立ち会えた時は、親として何事にも代えがたいものでした。最近は、ずり這いができそうでできない状況で、いつ一歩目が出るのか楽しみにしているところです。

また、私は趣味で磯釣りにハマっており、県内外へ釣り遠征によく行っていました。

特に、鵜来島や沖の島周辺の磯は、雄大な景色に囲まれながら釣りを楽しめすし、釣れる魚種も豊富かつサイズの大きい魚が釣れるので、とても気に入っています。

以前は、全方位を海に囲まれた沖にぽつんとある磯で釣りをしていましたが、2m近いサメがすぐ手前まで泳いできて、私が釣った魚を横取りしてくるので、海に引きずり込まれないように気をつけながら楽しんでいました。(他にはウミガメ、マンタ、イルカなども泳いできます)

ちなみに、別の場所ではハンマーヘッドシャークを釣ったこともあります。

娘が生まれてからはあまり釣りに行けていませんが、娘がもう少し成長すれば、家族そろって堤防でファミリーフィッシングをして楽しみたいです。



私は、副検事として、日々刑事事件の捜査・公判に携わっています。

副検事は国家公務員であり、全国転勤があります。

私自身、前任地は東京地検であり、高知(四国)には異動で初めて足を踏み入れました。

業務が立て込んでいるときには残業することもあります。なるべく定時で退庁するように心がけており、アフターファイブで日本酒や鰹のタタキなど土佐の美味しいものを楽しんだり、休日には東へ西へドライブして、高知の美味しいお店やおしゃれなカフェを発掘したり、都会にはない美しい自然を見に行き行って写真を撮ったりしています。

それに当たって非常に役立っているのが、『龍馬パスポート』です。

高知に赴任した際、先輩から教えていただいて入手したのですが、高知の観光地や飲食店、道の駅などでスタンプを押してもらえ、それが溜まるとパスポートのレベルが上がっていくというものです。

スタンプを集めるために、高知のあちこちに出かけていくようになり、プライベートを充実させる手助けになっています。

必然的に地理にも詳しくなっていくので、事件の捜査にも役立っていると感じます。

また、高知で過ごす時間が長くなってくると、徐々に興味の範囲が県外にも広がっていき、今後は愛媛や徳島、香川といった四国各県や、さらに中国地方や九州まで足を伸ばしてみようかと思っています。

副検事の仕事は、自分のスケジュールリング次第で、有給休暇も取りやすいですし、夏季休暇や年末年始は長大な休暇も取得できます。

今年の年末年始もかなり長い休暇になりそうですので、その休暇を利用して、高知やその周辺各地を制覇してみようと意気込んでいます。



私は現在、記録の保管・管理に関する業務を担当しています。

ここでは、高知地検の魅力を2つ紹介します。

1つ目は、法学部出身でなくても安心して仕事ができるという点です。

私は、今年で採用2年目ですが、昨年、入庁した際は、何をしたいのか全く分からず、よく前任者の引継書や参考資料などを読んでいましたが、古代エジプトの書物でも読んでいるかのような、何が書いてあるのかさっぱり分かりませんでした(笑)

ですが、先輩や上司などに聞きやすい雰囲気や、定期的に行われる研修では、より法律や業務について理解度を深められるなど、誰でも安心して仕事ができる環境が整っており、現在の部署でも楽しく働くことができます。(実は私は、工業高校出身で、法律について全く勉強したことのなかったスーパー法律初心者なんです)

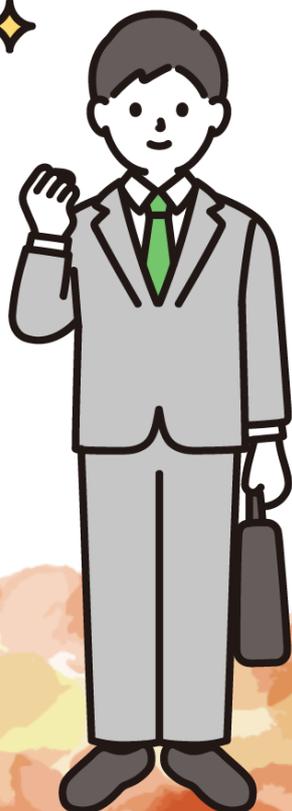
2つ目は、ワークライフバランスが充実している点です。

高知地検では、職員一人一人が積極的な休暇を呼びかけ合っており、休みやすい雰囲気や常にあるので、基本的にいつでも休暇を取得することができます。

仕事の能率を上げるためには、十分なリフレッシュが必要です。休暇を取りやすい高知地検は、とても働きやすい職場だと私は思っています。

また、私事ではありますが、先日、休暇をいただいて広島県に遊びに行き、お昼は尾道でラーメンを食べた後、宮島へ観光しに行ったり、夜はお好み焼きを食べたりして、余暇を満喫することができました！

最後になりますが、高知地検には他にも魅力的なところがたくさんありますので、ぜひ、就職先の候補の一つにさせていただけると嬉しいです。



私は、主に告訴・告発事件や独自捜査を取り扱う部署で勤務しています。

検察官の独自捜査と言えば、東京・大阪・名古屋地検にある「特捜部」が有名ですが、各地検にもそれぞれ担当部署があり、検察官の指示のもと、告訴を希望する方に事情をうかがうなど、捜査の端緒になり得る情報の収集や内偵捜査を行います。

また、当係の重要な仕事の一つとして、専用の機材を利用して、スマートフォンやパソコンなどの電子機器を解析し、残された犯罪の証拠を探す「デジタルフォレンジック」という作業があります。

近年、スマートフォンやパソコン、防犯カメラ、ドライブレコーダーなどが広く社会に普及し、証拠となるデータが通信アプリのやりとりや動画・写真などとして電子機器に保存されていることが多くなっています。そのため、これらのデータを適切に取り扱い保全することが犯罪捜査の重要な手段となっています。

デジタルフォレンジックについては、私自身も担当になるまで深い知識は持っていなかったのですが、検察庁では、各地の検察庁を支援する「先端犯罪検察ユニット(略称JPEC)」をはじめとした組織が中心となって研修制度や相談体制が整えられており、悩ましい事例に遭遇するたびに助言を受けながら執務しています。

デジタルフォレンジック以外にも、法務省では、捜査や刑事裁判の手続きをIT化する取り組みが推進されています。電子機器やITに知識・興味を持つ方は就職先候補として検察庁を検討してみてもはいかがでしょうか。歓迎されると思います。ワークライフバランスや執務環境の整備にも配慮してくれるとても良い職場ですよ。

私は、総務課において、採用や人事に関する仕事をしています。

高知地検では、毎年、数名の検察事務官を採用していますが、なるべく多くの方に検察庁で働くことを希望していただくため、業務説明会を開催するなどして高知地検の情報を発信しています。

業務説明会では、検察庁の仕事内容に加え、研修制度が充実していること、先輩が丁寧に教えてくれることなど、人を育てる制度や雰囲気があることなどをお話させていただいておりますが、私が話す内容は十分ではなく、検察庁の魅力まで伝え切れていません。

検察庁の魅力は、他官庁にはない、刑事事件の捜査や裁判に関する仕事ができることにありますが、これをよく知っているのは、現場で働く検察官や検察事務官です。

検察庁は、固い役所で、働いている人は皆真面目だと思われていますので、業務説明会では、若手事務官を中心に、捜査の現場で働く職員との座談会を開いて、時には難しい業務を行いながらも、やりがいを持って仕事をしていることや、職員同士の明るい雰囲気が伝わるように工夫しているところですので、機会があれば是非ご参加ください。

ところで、私は二児の父親でもあるのですが、小学生の次男が昨年からサッカーを始めました。

家族のだれもサッカーの経験がないため、練習場所への送迎、コーチや保護者同士の付き合い方など、新しい世界に踏み込んだ感じがあります。

休日は、ほぼサッカーの練習があり、当然、暑くても寒くても多少雨が降っていても練習をしますから、次男はそれなりにやる気があるのですが、高齢になりつつある私の方がそろそろ厳しい状況です(泣)。

人を育てるといのは、公私とも、労力が必要だと痛感しています。

